

廃炉プロセス「PCV/RPV/建屋の解体」

検討対象「解体廃棄物分別基準」

課題「 $\alpha\beta\gamma$ 分別基準の設定」

ニーズ

1. 廃棄物を合理的に分別したい。

PCV/RPV/建屋の解体：【長期 1】

望ましい現状とその理由

- PCV/RPV/建屋の解体によって、処理・処分すべき廃棄物の種類と物量が影響を受ける。そのため、処理・処分を見越した PCV/RPV/建屋の解体方法、特に廃棄物を分類する際の考え方・基準を合理化することが望まれる。（より手厚い処理・処分を要する廃棄物量を低減し、より簡便な処理・処分で対応可能な廃棄物量を相対的に増やす方策が望まれる）。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- 課題番号：解体 101 の成果に基づき、処分方法の検討も踏まえつつ PCV/RPV/建屋の $\alpha\beta\gamma$ 分別基準を検討する必要がある。
- 処理・処分側から、PCV/RPV/建屋の解体側に要件や要求事項、留意事項が示されることが望まれる。
- また、合理化された考え方・基準に対応した測定方法・分別方法等の整備・開発が望まれる。
- 発生する建屋廃棄物表面の α 、 β 、 γ 汚染に応じた計測方法および精度が各々望まれる。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- H28 年度英知「汚染コンクリートの解体およびそこから生じる廃棄物の合理的処理・処分の検討」
 - － https://www.kenkyu.jp/nuclear/result/h29/document/H29eichi_houkokukai_shiryo_poster_28.pdf
- 廃炉・汚染水対策事業「固体廃棄物の処理・処分にに関する研究開発（保管管理、処理・処分概念の構築と安全評価手法の開発、性状把握の効率化、研究開発成果の統合）」
 - － http://irid.or.jp/_pdf/20180000_15.pdf?v=2
 - － http://irid.or.jp/_pdf/20180000_16.pdf?v=2

検討されている研究課題

- 特になし

関連する課題

- 解体-102「解体対象物の性状・物量の把握」
- 解体-203「解体シナリオ・分別戦略の策定」
- 解体-204「作業シーケンスの設定」
- 共-2「可視化技術」
- 共-3「測定・分析技術」